

第 118 回 中野区のプロジャック像と板橋区の渋沢像

筆者：林 久治（記載：2020年3月12日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気侷な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 [（1）のサイト/](#) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

私は1月20日から29日まで、大阪の息子宅に滞在して、近畿地方の銅像を探索した。[115回の記事/f](#)では、関西大学の銅像探索記を記載した。[116回の記事/f](#)では、関西学院と公文の銅像を紹介した。その頃から、日本でも武漢肺炎が蔓延しはじめたので、私は3月からスポーツジムでの水泳を控えている。それでは運動不足になるので、近場の散策を出来る限り行っている。

その一環として、私は3月6日には中野区江古田を散策し、プロジャック神父像を撮影した。3月9日には板橋区大山を散策し渋沢像を撮影した。本稿は、それらの探索記である。なお、本稿においては、資料の記述を **緑文字** で、私（林）の意見や説明を **青文字** で記載する。



図 1. 中野区江古田付近の地図 左：1909年測量、右：現在。 本図は、今昔マップ様より借用。

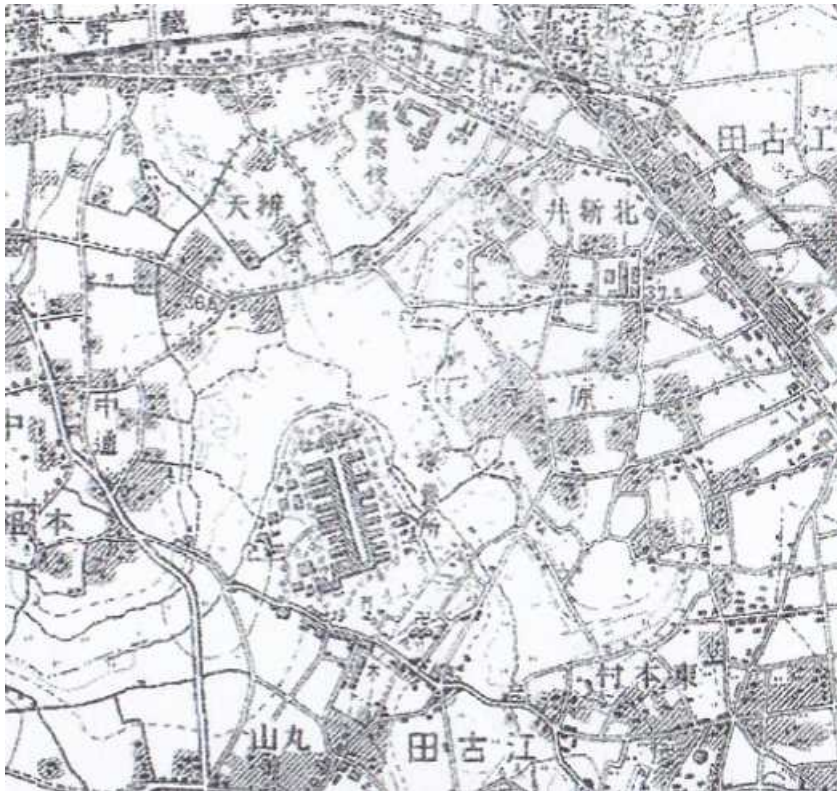


図 2. 中野区江古田付近の地図（1929 年測量）。 本図は、今昔マップ様より借用。

（2）中野区江古田の東京市立中野療養所

1909 年測量の豊多摩郡野方村大字江古田付近（現在の中野区江古田）の地図を図 1 左に、現在の地図を図 1 右に示す。図 2 には、1929 年測量の江古田付近の地図を示す。図 1 左から分かるように、明治時代の当地は、江古田原と呼ばれる田園地帯で、氷川神社と東福寺があった。これらの寺社は現在でも健在である。図 3 に両社の写真を示す。



図 3. 左：江古田氷川神社、右：東福寺

[2\) のサイト/1](#)によれば、江古田氷川神社は、1460 年の創祀と伝えられ、当初牛頭天王社と称していたが、1696 年に氷川神社と改称し、当地江古田村の鎮守社だったと言われている。[3\) のサイト/1](#)によれば、東福寺の創建年代は不詳だが、天正

年間（1573-1593）江古田村の村民が開基となり、村内御嶽山に創建したと伝えられている。江戸時代には3代将軍家光が鷹狩りの際に休息し、8代将軍吉宗は御膳所に指定していたというほどの古刹で、御府内八十八箇所霊場2番である。

江古田と言えば、西武池袋線に江古田駅があるので、練馬区に所属すると思いがちである。しかし、実際の江古田は、江古田駅と沼袋駅の間であり、中野区に属している。江戸時代の江古田は将軍の鷹狩りの猟場であったことから分かるように、明治時代は空気の良い田園であった。これに目をつけて、肺結核治療のための中野療養所が、地元民の反対を押し切って、1919年に当地に建設された。その当時の地図を、図2に示す。

中野療養所に関連する出来事を、ウィキペディア（国立国際医療研究センター、国立療養所中野病院）などを参考にして以下に記載する。

1915年4月15日：武蔵野鉄道が武蔵野線（JR武蔵野線とは別）の池袋 - 飯能間（44.2km）開業。東長崎駅、練馬駅、石神井駅、保谷駅、東久留米駅、（旧）小手指駅、元狭山駅、豊岡町駅、仏子駅、飯能駅開業。所沢駅を川越鉄道と共用開始。

1919年5月29日：東京市立中野療養所（後の国立療養所中野病院）が、日本初の公立の結核療養所として当地に建設された。建設に際しては、地元住民の激しい反対運動が起こり、新聞は百姓一揆と書いている。図2に、療養所の名前がある。

1921年12月：旧制武蔵高等学校が設立される。図2に、武蔵高校の名前がある。

1922年11月1日：武蔵高校の設立に合わせて、江古田駅の前身が「武蔵高等学校用仮停留所」として開業。図2に、「えこだ」駅の名前がある。

1965年：地上10階地下1階の病棟を有する施設となった（1993年、移転）。

2007年4月1日：病院跡地が公園と福祉施設として整備され、北江古田公園の部分と併せて、全体で江古田の森公園として開園。

（2）ベタニアの家のフロジャック神父像

1927年7月19日、一人のフランス人神父が同僚神父の都合で代役としてはじめて東京市立中野療養所を訪れ、高橋登美男という青年を見舞った。神父がそこで目にしたのは、治癒する見込みのない多くの結核患者たちが病と闘いながら苦しみの中に生きている姿であった。療養所の設備の足りなさ、治療の不充分さ、アフターケアの皆無に等しい現実を神父は痛切に感じ、そうした患者たちをいかにして救済するかを考え始めた。

この神父は41歳のフロジャック神父で、この年より結核患者及びその家族のための総合的な福祉施設を目指して活動を開始し、後々東京における社会福祉活動に大きな足跡を残すことになる。（なお、[4）のサイト/M](#)で「中野療養所とフロジャック神父」の動画が視聴できます。）ウィキペディア（フロジャック神父）、[5）のサイト/1](#)、および[6）のサイト/](#)を参考にして、神父の略歴を以下に記載する。

ヨゼフ・マリウス・シャルル・フロジャック（Joseph Marius Charles Flaujac、1886 - 1959）

1886年3月31日：フランス南部のアヴェロン県ロデーズにて生まれる。

1909年：大神学校を卒業と同時に司祭に叙階。東京教区へ派遣され、関東で布教活動。

1913年：東京へ転任を命じられ、関口教会の主任司祭に就任。

1927年：東京市立中野療養所を訪れ、一信者の結核患者を見舞った。これを機に、その後30年あまりにわたり、やむことのなかった病者訪問が始まります。当時死の病といわれ、強い感染力をもつ結核患者の顔に、近々と自分の顔を寄せ、相手の目を優しく見つめながら「具合はどうだね？」と一人ひとり見舞っていきます。1,200名の入院患者すべてにそうして歩くのは、並大抵のわざではありませんでした。「キリストのこころ」を心として生きていた神父にとって他人の苦しみを見て通り過ぎるわけにはいきませんでした。

1929年：ある日、ひとりの患者が退所命令を受けて行き場のないことを神父に訴えてきました。当時の結核患者は、治っても治らなくても1年経つと、病院を退所させられる決まりになっていました。退所しても家族はひきとらず、仕事にも就けません。生活のすべを見出せない患者の中には、退所を待たず、自らの命を絶ってしまう人もいました。個人的善意で立ち向かうには、問題はあまりに大きく、根は深すぎました。しかし、神父は、自分の目の前にうなだれて立っているひとりの人間を見殺しにすることができなかつたのです。こうして一軒の家が、神父の努力によって借り入れられ、そこに数名の行き場のない患者が収容されることとなりました。東京府豊多摩郡野方町丸山に設けられたこの仮の家こそ、神父がベタニアの事業に踏み切る第一歩となったものです。

1930年：幾人かの仲間の宣教師がこの計画のために資金を提供しました。こうして、ともかくも療養所に近接した小川のほとりに、木造2階建てのホームを造ることができたのです。神父はこれを「ベタニアの家」と名付けました。「ベタニア」は、キリストの愛されたパレスチナの地名であり、「主の憐れみ」を意味します。

1931年：フロジャック神父を助けるため関口教会の女性信者数名が事業に参加し、「ロゼッタ姉妹会」（現在のベタニア修道女会）が発足。

1932年：ベタニアの家の筋向いに患者の子供たちを収容するため、児童福祉施設「ナザレトの家」を建設。昭和天皇より、5,000円の御下賜金を受ける。

1933年：購入済だった清瀬村の土地に、軽症患者やその家族を収容できる総合施設を建設するため開拓に着手し、療養農園「ベトレヘムの園」を設立。

1934年：ベトレヘムの園西隣の土地7,500坪を買い入れ、児童養護施設「東星学園」（現在のベトレヘム学園）を建設。

第二次世界大戦中：フロジャック神父に対しては当時すでに有名な社会福祉事業家であり、また御下賜金を受けていた事もあって、比較的自由に活動。

1945年：上野駅地下道の両側を埋め尽くす浮浪者たちを見て診療活動を決意し、医師・看護婦・修道女による「ベタニア巡回診療班」を組織し、行動を開始。

1959年：朝日賞を受賞。同年11月29日より病床に臥せ、12月12日に死去。享年73歳。遺言は「私は貧しい人々の友であった。私の葬式は貧しい人に相応しいものにして欲しい。花は一切ご遠慮したい。思召しがあったら貧しい人々に与えて頂きたい」というものであった。死去に際し、勲四等瑞宝章が贈られた。

1993年、国立療養所中野病院は移転し、跡地は江古田の森公園となっている。フロジャック神父が設立した「ベタニアの家」は江古田の森公園の南に存続している。現在は、「ベタニア修道女会修道院」、「徳田教会」、「徳田保育園」、「特別養護老人ホーム、ベタニア・ホーム」、「社会福祉法人慈生会本部」、「ナザレット乳児院」などがある（次ページの図4を参照）。なお、「ナザレット乳児院」は2017年12月19日、中野より清瀬の新建物へ移転している。

江古田の森公園の周辺地図を次ページの図4上に、現在の「ベタニアの家」周辺地図を図4下左に示す。ヨゼフ・フロジャック神父立像の写真を6ページの図5に示す。（本文は、7ページに続く。）

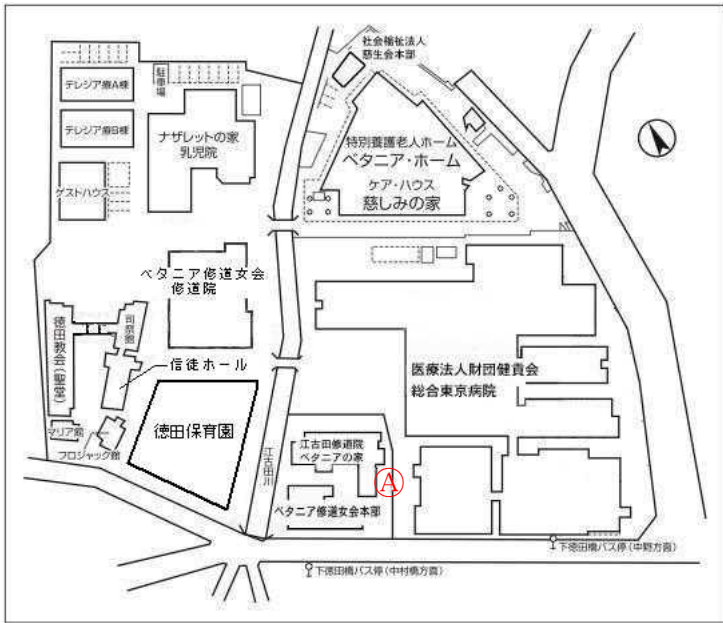


図4. 上：江子田の森公園の周辺地図（赤線の枠内が図4下左の範囲）、本図は、[7](#)のサイト/Aより借用。下左：現在の「ベタニアの家」周辺地図。本図は、[8](#)のサイト/yより借用。フロジャック神父像の建立場所はA地点。下右：フロジャック神父像の台座の銘。



図5. ヨゼフ・フロジャック神父立像 設置場所は図4の④地点

以上の資料より、フロジャック神父像の概要は次のようになる。

ヨゼフ・フロジャック神父立像

設置場所：東京都中野区江古田 3-15-2、「ベタニアの家」の前庭

設置時期、制作者：不明。

設置経緯：ヨゼフ・マリウス・シャルル・フロジャック神父（Joseph Marius Charles Flaujac、1886年3月31日 - 1959年12月12日）はパリ外国宣教会所属のフランス人宣教師である。1909年に来日し、関東で布教活動。1918年に関口教会主任司祭。1927年より結核患者及びその家族のための総合的な福祉施設を目指して活動し、東京における社会福祉活動に大きな足跡を残した。1930年：江古田に「ベタニアの家」を創立。1931年：「ロゼッタ姉妹会」（現在のベタニア修道女会）を創設。1933年：清瀬村に療養農園「ベトレヘムの園」を設立。1934年：児童養護施設「東星学園」（現在のベトレヘム学園）を建設。1959年：朝日賞、勲四等瑞宝章。

私は「現在のカトリック教はパウロが作ったもので、イエス様の教えとは大きく乖離している」とも「ヨーロッパのキリスト教徒達が全世界でこれまでに犯してきた数々の残虐行為は決して許されるものではない」とも考える。しかし、キリスト教徒のなかでも、フロジャック神父のように、「イエス様の心」に導かれて困窮している人々を救済した方々がおられることも事実である。私はこのような優しい方々を尊敬する（私はこれを「友愛主義」と呼ぶ）。但し、シュバイツァー博士やマザー・テレサは偽善者で、現地民達を見下していたのが真相であった。私はこのような偽善者やカトリック教は（勿論、プロテスタントも）嫌いである。

（3）板橋区大山の渋沢像

3月9日は温暖であったので、私は東上線大山駅付近を散策し渋沢像を撮影した。大山駅の周辺地図を図6に示す。



図6. 大山駅周辺地図 本図は、[9\) のサイト/](#)より借用。①：渋沢像の場所。

渋沢像は全国各地に多数あるが、当地にも巨大な座像が古くからある。しかし、本像は「探偵団」のギャラリー ([1](#)) の[サイト/](#)に何故か収録されていない。そこで、私は本像を探索した。本像の写真を図7に示す。



図7. 上：渋沢像周辺の小公園、下：渋沢栄一座像。

東京都健康長寿医療センターは大山駅の直ぐ北方にあり、歩いて数分で行くことができる。本センターの前庭（図6の①地点）に巨大な渋沢栄一座像が設置されていた。本像付近は綺麗な小公園となっており、保育園児達が散歩に来ていた。台座正面と裏面の銘文を図8に示す。

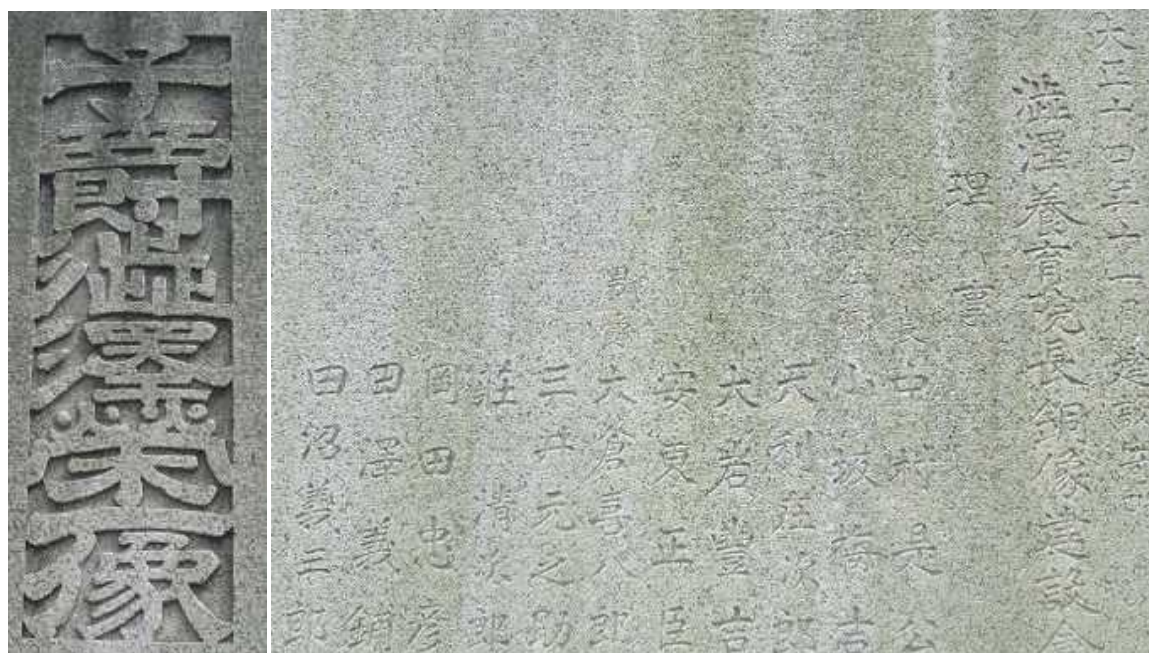


図8. 左：台座正面の銘文、右：台座裏面の銘文。

台座正面の銘文には「子爵澁澤栄一像」と刻まれており、裏面には「大正十四年十一月建設寄贈 澁澤養育院長銅像建設會 理事 中村是公 云々」と刻まれている。ウィキペディア（中村 是公）によれば、中村の略歴は以下の通りである。

中村 是公（なかむら よしこと、1867年12月20日 - 1927年3月1日）

安芸国佐伯郡五日市村（現・広島県広島市佐伯区五日市町）に酒造業・柴野宗八の五男として生まれる。第一高等中学校を経て（夏目漱石と同期）、東京帝国大学法科大学を卒業し、大蔵省に入省。秋田県収税長を経て、台湾総督府に赴任する。ここで、民政局長として赴任してきた後藤新平との出会いが是公の一生を左右した。是公は後藤腹心の三羽鳥といわれ、後藤との深い信頼関係は一生続くこととなる。台湾統治で実績を挙げていた後藤は、半官半民の国策会社・南満州鉄道株式会社（満鉄）の総裁となり、40そこそこの是公を副総裁に抜擢。1908年、後藤が2年で逓信大臣に抜擢されて満鉄を去ることになると、彼は若すぎるとの批判を押し切って是公を第2代満鉄総裁に据えた。1909年、ハルビン事件で伊藤博文が暗殺された現場に居合わせ、中村にも銃弾が2発かすったが、ほぼ無傷だった。1917年、寺内内閣の内務大臣兼鉄道院総裁であった後藤は、自らの鉄道広軌化の方針を推進するため、是公を鉄道院副総裁に任じた。1918年、後藤が外務大臣に横滑りすると、後藤が兼任していた鉄道院総裁には、是公が就任した。1923年、関東大震災が発生した。1924年、後藤の強い推薦により、是公は第9代東京市長となり、震災後の東京の復興に取り組んだ。1927年3月1日、親友漱石と同じ胃潰瘍で急死した。享年60。

つまり、中村是公は当地に渋沢像が建設された時の東京市長（銅像建設会の会長）であった。なお、小坂 梅吉（1873- 1944）は、当時の東京市議会議員（銅像建設会の専務理事）であった。



図 9. 養育院本院の碑

渋沢像の周囲には「養育院本院の碑」と「旧養育院長渋沢栄一銅像の案内板」が設置されていた。前者を図 9 に、後者を次ページの図 10 に示す。前者の説明板には、以下のように記載されていた。

養育院本院の碑

養育院は明治五（1872）年十月十五日に創設された。維新後急増した窮民を収容保護するため、東京府知事大久保一翁（忠寛）の諮問に対する営繕会議所の答申（救貧三策）の一策として設置されたものである。この背景には、ロシア皇子の訪日もあった。事業開始の地は、本郷加賀藩邸跡（現東京大学）の空長屋であった。その後、養育院本院は上野（現東京芸大）、神田、本所、大塚など東京市内を転々としたが、関東大震災後、現在地の板橋に移転した。養育院設置運営の原資は、営繕会議所の共有金（江戸幕府の松平定信により創設された七分積金が明治新政府に引き継がれたもの）である。

養育院の歴史は、渋沢栄一を抜きには語れない。営繕会議所は、共有金を管理し養育院事業を含む各種の事業を行ったが、渋沢は明治七年から会議所の事業及び共有金の管理に携わり、養育院事業と関わるようになった。明治十二年には初代養育院長となり、その後亡くなるまで、五十有余年にわたり養育院長として事業の発展に力を尽くした。

養育院は鰥寡孤独（かんかこどく）の者の収容保護から始め、日本の社会福祉・医療事業に大きな足跡を残した。特に第二次世界大戦後は、児童の保護や身寄りのない高齢者の養護、さらに高齢者の福祉・医療・研究・看護師の養成など時代の要請に応じて様々な事業を展開した。

平成十一年十二月、東京都議会において養育院廃止条例が可決され、百二十七年にわたる歴史の幕を閉じたが、養育院が行ってきた事業はかたちをかえて現在も引き継がれている。

養育院に関連する碑は、ほかに養育院の物故者中、引取人のない遺骨を埋葬、回向をお願いした東京都台東区谷中の大雄寺、了侘寺、栃木県那須塩原市の妙雲寺及び東京都府中市の東京都多磨霊園にある。

なお、碑の「養育院本院」は渋沢栄一の墨蹟を刻んだものである。

平成二十五（2013）年三月 養育院を語り継ぐ会

この碑は元養育院職員等の篤志によって建てられました。

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

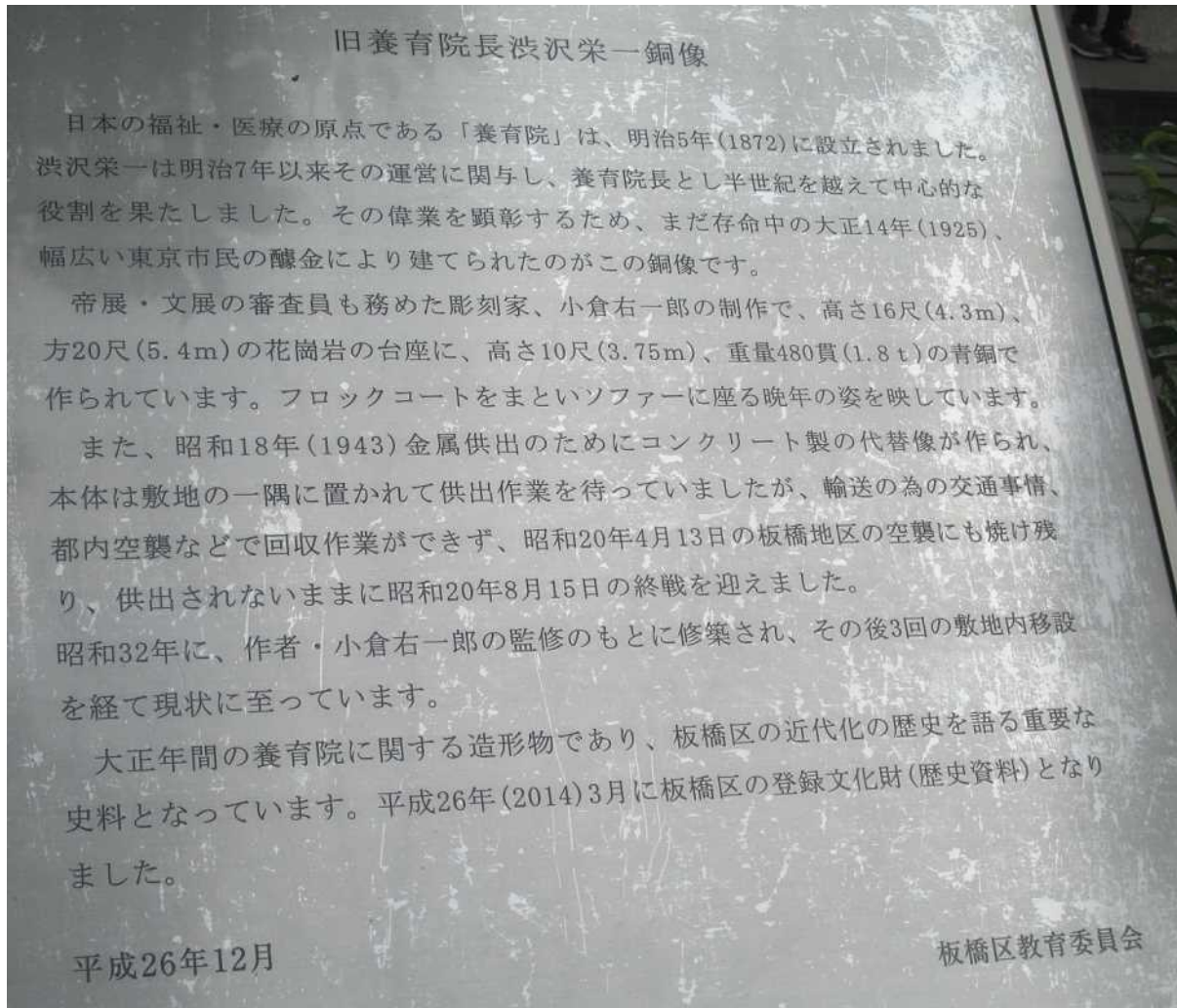


図 10. 「旧養育院長渋沢栄一銅像」の説明文

「旧養育院長渋沢栄一銅像」の説明文には、以下のように記載されていた。

旧養育院長渋沢栄一銅像

日本の福祉・医療の原点である「養育院」は明治5年（1872）に設立されました。渋沢栄一は明治7年以来その運営に関与し、養育院長として半世紀を越えて中心的な役割を果たしました。その偉業を顕彰するため、まだ存命中の大正14年（1925）、幅広い東京市民の醸金により建てられたのがこの銅像です。

帝展・文展の審査員も務めた彫刻家・小倉右一郎の制作で、高さ16尺（4.3m）方20尺（5.4m）の花崗岩の台座に、高さ10尺（3.75m）、重量480貫（1.8t）の青銅で作られています。フロックコートをもといソファーに座る晩年の姿を映しています。

また、昭和18年（1943）金属供出のためコンクリート製の代替像が作られ、本体は敷地の一角に置かれ供出作業を待っていましたが、輸送のための交通事情、都内空襲などで

回収作業ができず、昭和 20 年 4 月 13 日の板橋地区の空襲にも焼け残り、供出されないまま昭和 20 年 8 月 15 日の終戦を迎えました。

昭和 32 年に、作者・小倉右一郎の監修のもとに修築され、その後 3 回の敷地内移設を経て現状に至っています。

大正年間の養育院に関する造形物であり、板橋区の近代化の歴史を語る重要な史料となっています。昭和 26 年（2014）3 月に板橋区の登録文化財（歴史資料）となりました。

昭和 26 年 12 月 板橋区教育委員会

以上の資料により、洪沢像の概要は次のようになる。

洪沢栄一座像

設置場所：東京都板橋区栄町、東京都健康長寿医療センターの前庭

建立時期：1925 年 11 月 15 日、現在地への移設は 2013 年 6 月。

制作者：小倉右一郎（1881－1962）

設置経緯：健康長寿医療センターを、地元の人たちは養育院とか養老院と呼んでいる。1872 年に設立されたもので、その後さまざまな名称を経て現在に至る。主に高齢者の予防・医療・介護に取り組んでいる。1923 年の関東大震災で養育院の大塚本院が崩壊し、板橋に移った。洪沢栄一（1840-1931）は 1874 年から養育院事業に携わり、半世紀以上に亘って初代院長（1879-1931）を務めた。本像は、板橋本院が完成した 1925 年、中村是公東京市長の呼びかけに多くの人たちが賛同し、高さ 4.3 メートルの台座に 3.75 メートルの青銅製の大きな銅像を完成させた。戦争による金属供出のため台座から外されたが重過ぎて搬出できず、戦後に元に戻された。

なお、[10\) のサイト/t](#)には、1925 年 11 月 15 日に挙行された洪沢養育院長銅像除幕式の模様が以下のように記載されている。

東京市養育院月報 第二九二号・第一一——三頁 大正一四年一一月

○洪沢養育院長銅像除幕式 洪沢養育院長が過去五十年間に亘り、終始一貫養育院事業に心血を注がれ、孜々として拮据経営せられつゝある偉大なる功績を記念する方法に就ては、夙に養育院常設委員諸氏の間にて考究中なりしが、遂に工費三万余円を以て養育院構内に子爵の銅像を建設して之れを養育院に寄附することに決し、客年十二月中、東京市長・同助役・東京市会議員及養育院常設委員一同並に養育院幹事を發起人として、洪沢養育院長銅像建設会を設立し、本年一月より資金の醸集に着手したることは、曩に本誌上に報じたる通りなるが、爾後幸ひにして多数有志の賛同を博し、予定資金の醸集確実なるの見込立ちたるを以て、本年三月中彫塑家小倉右一郎氏に囑して該銅像の製作及び附帯工事の造営に着手し、工程亦た順調に進捗し、十一月二日に至り遂に一切の工事竣成を告げたるを以て、同月十五日午前十時半より養育院構内の銅像前広場に於て、子爵並に其同族各位・市名誉職・本院関係官吏・醸出者・新聞記者、其他八百余名の紳士淑女を招待の上、盛大なる除幕式を挙行せり、今其模様を概記せん、当日は晩秋稀なる小春日和にて、定刻前より或は自動車に或は徒歩に続々参着せらるゝ来賓織るが如く、真に板橋町に於ける未曾有の光景を呈したり

臆て開会を告ぐる一発の煙火冲天に轟くや、主賓洪沢院長並に洪沢子爵の同族を始め来賓一同は予て設らへたる銅像前の式場に参入、一同着席を了はらるゝや、当日の司会者田中本院幹事先づ開会の辞に次ぎ銅像建設の経過並に工事報告を為し、次で中村市長は銅像建設会長の資格にて式辞を述べられ、右終るや洪沢子爵令孫昭子嬢（十一歳）は田中幹事の介添へにて幼なき花の姿を銅像の直下に運ばれ、肅然として除幕の紫紐を惹けば、紅白色鮮やかなる覆幕は微風に翻へりつゝ颯と辻べり落ち、見るも心地よき白色の花崗岩台石上、十有六尺の中空に温容玉の如き子爵の青銅坐像活けるが如くに現はれ出でしかば、急霰の

如き拍手と歓呼は期せずして会衆の間に湧き起これり、斯くて芽出度く除幕終れば渋沢院長はやをら老軀を演壇に運ばれ、感慨無量の態度にて鄭重なる謝辞を述べられ、次いで若槻内務大臣及び平塚東京府知事の孰れも老子爵の功績を称へたる懇篤なる祝辞朗読あり、最後に小坂本院常設委員長は建設会専任理事として閉会辞を述べられ且つ同氏の発声にて子爵の万歳を三唱し、之れにて滞ほりなく式を閉ぢ直に來賓を本院大講堂内に設らへたる食堂に案内し午餐を饗応せり、斯くて宴方に酣なる頃、小坂専任理事より一場の挨拶を述べらるゝところあり、次で近藤東京市会副議長は市会議員を代表して乾盃辞を述べられ、老子爵の万歳を祝する歓呼の裡に一同の乾杯あり、終りて再び渋沢子爵の蘇東坡の喜雨亭の記に因める含蓄深き一場の演説あり、最後に枢密院議長穂積陳重男は渋沢子爵家親族を代表していと鄭重なる謝辞あり、和氣霽々裡に散会せしは午後一時過ぎなりき、因に当日の來賓其他参列者は渋沢子爵の外、若槻内務大臣・平塚東京府知事・中村東京市長・穂積男爵及令夫人・阪谷男爵・松方公爵・渋沢正雄氏同敬三氏・高田早苗氏・浅野総一郎氏等、朝野の紳士淑女無慮四百名の多きに達したるが、今其主なる芳名を録すれば左の如し○出席者氏名略ス 因に当日式場に於ける田中幹事の開会辞及報告、中村市長の式辞、渋沢子爵の謝辞、若槻内務大臣及平塚東京府知事の祝辞、小坂常設委員長の閉会辞及び食堂に於ける渋沢子爵の演説、並に穂積男爵の謝辞は、之れを次号に掲載すべし。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：https://tesshow.jp/nakano/shrine_ekoda_hikawa.html
- 3) のサイト：<https://ameblo.jp/composure3956/entry-12224299963.html>
- 4) のサイト：<https://www.youtube.com/watch?v=vVBQ5imbS1M>
- 5) のサイト：<http://www.jiseikai.jp/about/index2.html>
- 6) のサイト：<https://www.sistersofbethany.info/>
- 7) のサイト：<https://mapfan.com/spots/SCC5A,J,ULA>
- 8) のサイト：<https://catholic-tokuden.jp/index.php/team/history>
- 9) のサイト：<https://www.tmghig.jp/hospital/access/>
- 10) のサイト：
https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryō/digital/main/index.php?DK300023k_text